

# 協同労働・よい仕事研究交流全国集会 2024 分散会報告

## よい仕事とは何かーあきらめ、おまかせをこえて、だれもが当事者に

前号(377号)では、3月2日に行われた「協同労働・よい仕事研究交流集会2024」全体会について報告した。そこで話し合われたことは、よい仕事の追求と協同労働の職場づくりという2つのテーマであった。これを受け、翌3月3日に20の分散会が開かれた。具体的な実践報告を通して、参加者と共に内容を深めていくことが目的である。分散会の主な流れとして、参加者一人ひとりが全体会の感想と自己紹介をし、その後3つの実践報告が行われた。それに対して1~2名のコメンテーターがコメントをし、さらに全体で話し合うというものである。

本号では、主にコーディネーターに実践報告をまとめてもらい、それに加え、コメンテーターのみなさんからも感想を寄せてもらった。実践報告とコメントをドッキングしたものを分散会ごとにまとめた。

そもそも、分散会の報告者はどのようにして決まるのかという質問をいただくことがよくある。まず、エリアごとに地域版の「よい仕事集会」が開催される。エリアとは、センター事業団の事業本部のある地域のことだが、そこに位置する労協連加盟・準加盟組織なども参加することになっている。そして、参加者による投票などの方法によって、エリアを代表して全国のよい仕事集会で報告する事業所が選出される。選出数は、エリアによって決まっている。

第1回よい仕事研究交流集会が行われたのは1989年5月のことである。2020年はコロナ禍のため開催自体が中止となった。2021年からは主にオンラインで開催されるようになった。労働者が主体となる私たちの事業運営において、「よい仕事」は大切な価値であり、最も重要な集会として組織的に位置づけられている。

『協同の発見』誌では、2021年からは分散会の実践報告は取り上げておらず、コメンテーターの感想のみを寄せていただくことにした。しかし、「実践報告の内容についても簡単に紹介してほしい」という声があがったことから、今年度は分散会の実践報告も掲載する。本誌が発行できたのは、記録者とコメンテーターのみなさんの協力の賜物であり、この場を借りて感謝を申し上げたい。